

### 棒道・舟運～輸送・物流に欠かせないもの～



北杜市から信州諏訪へ向けて延びる「棒道」。武田軍の侵攻路として、信玄により整備されたものと伝えられる。「甲斐国志」によれば、上・中・下の三筋があったという。同時代の史料には、軍勢の駐屯地として、上の棒道の起原若神子(北杜市)、中の棒道が通過した大井ヶ森(同)の地名がしばしば登場する。

富士川の舟運は、十七世紀初頭に始まるとされる。しかし、河川を使った物資の輸送は、さらにさかのぼるようだ。笛吹市では、十四・十五世紀の作とされる常滑焼のかめが各一点発見されている。このうち十四世紀のものは、高さ五八・六センチメートル、口径四三・四センチメートルに及ぶので、産地の知多半島(愛知県)から馬の背につけて運ぶのは、不可能だったと思われる。



笛吹市内で発見された常滑焼のかめ

### 伝馬・輸送人夫制度～宿場ごとに人馬を交換する～

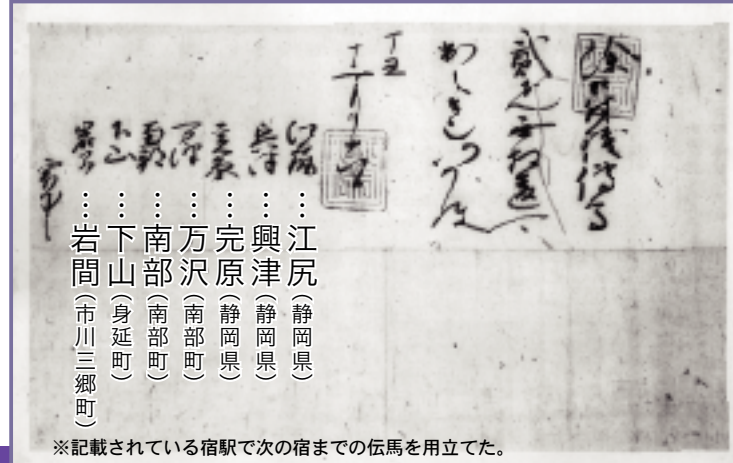


伝馬がおかれていた宿場(台ヶ原宿)

甲州道中。甲斐国内には、東端の上野原宿(上野原市)から西端の教来石宿(北杜市)まで二十五宿が置かれた。街道や宿駅の整備は、江戸幕府の成立とともに進んだが、その起源は信玄の時代に求めることができる。

永禄十一年(一五六八)、木曾へ向かった小田原在住の僧侶は、甲府から台ヶ原(北杜市)まで馬一頭を用立ててもらい、四十文を支払っている。

次回は、「林」をテーマにお送りします。



※記載されている宿駅で次の宿までの伝馬を用立てた。  
穴山家伝馬手形(幸福大夫文書・三重県伊勢市「神宮文庫」所蔵)

## 甲州文化再見

### 第一回 風 疾如風 情報伝達と輸送手段

“FŪ” “RIN” “KA” “ZAN”

来年1月からのNHK大河ドラマ『風林火山』の放映は、山梨の魅力在全国に発信し、本県のイメージをさらに高める絶好の機会です。県では、大河ドラマの放映にあわせ、官民協働の集客イベント『風林火山博(仮称)』の開催などさまざまな取り組みを行っていきます。この機会に皆さんも郷土山梨をもう一度見つめ直してみませんか。英雄・武田信玄の時代の文化を「風」「林」「火」「山」の4回シリーズで紹介いたします。

第一回目のテーマは「風」。内外の情勢をいかに早く知り、伝えるか。また、いかに多くの物資や人間を短時間で移動させるか。これらは国の存亡に関わる重要な課題であったと思われます。情報伝達手段の確保と効率的な輸送・物流のための知恵を紹介いたします。

### のろし～山岳地形を活用した情報の伝達手段～



上図の城砦群を甲相国境付近から望む  
① 鶴島御前山  
② 栃穴御前山  
③ 牧野砦  
④ 四方津御前山

武田氏は緊急の情報伝達手段として、のろし(烽火・狼煙)を盛んに使ったという。江戸時代後半に編まれた「甲斐国志」は、身延町西島に所在した烽火台を「篝火焼場」と呼び、周辺の峰々には物見が置かれたとする伝承を載せている。富士吉田市から富士河口湖町付近には、「鐘撞堂」の称が残っている。日中は煙を上げ、また夜

間は篝火をたき、鐘・太鼓を打ち鳴らして、躰躰ヶ崎館の信玄へ情報を継ぎ送ったのだらう。上野原市から大月市にかけて、桂川の兩岸には、「御前山」と称される峰々が点在するが、これらも同様の施設と考えられている。相互の距離は二キロメートル前後である。